

ホワイトハンドコーラスNIPPONとは



「舞台から未来を創る」

ホワイトハンドコーラスは、1995年に社会問題解決型の音楽教育「エルシステマ」の本拠地ベネズエラで誕生したインクルーシブな芸術活動を行う合唱隊です。聞こえない子ども、見えない子ども、車椅子の子ども、その友達も、多様な子どもたちが互いの力を合わせて表現します。手話や表情の表現で歌う（手歌）サイン隊と、声で歌う声隊がともに奏でる音楽は、見えない壁を乗り越える未来の世代の芸術創造です。日本においては2017年より活動を開始。2020年度から一般社団法人El Sistema Connectと公益財団法人東京都歴史文化財団東京芸術劇場との共催事業として東京・京都において聴覚障害や視覚障害を含む約40名が活動を行なっています。指導は芸術監督であるコロネりか（ソプラノ歌手）や井崎哲也（ろう者劇団特別顧問）をはじめとして、現役で活躍するプロの音楽家や俳優、パフォーマーが行っています。主な活動は2021年新国立劇場オペラ「Super Angels」への出演、NHKみんなのうた「ツバメ」、バッハ・コレギウム・ジャパン「クリスマス・スペシャル・コンサート」出演や京都コンサートホールにおける自主公演など。写真家とのコラボ作品展「第九のきせき」や、絵本ムービー「ミルとキクとポッシボ」制作など幅広い活動を通して障がい者と共創する新しい芸術活動の普及を目指しています。

【受賞】

2022年10月 SDG's岩佐賞ジャパンスカラシップ 芸術賞「第九のきせき」田頭真理子
2021年2月「京都はぐくみ憲章推奨団体」としてはぐくみアクション賞
2019年11月 ローマ法王来日に合わせ演奏 メダル授与

【ホワイトハンドコーラスの特徴】

- 1、**子どもと一緒に**インクルーシブな未来をデザインする
当事者性の尊重から**自己肯定感と寛容**へ：子どもも運営に参加、手歌制作、リーダー制度
- 2、障がいの有無や経済状況に関わらず無償で参加できる：**公共**の劇場、自治体との協働
- 3、プロの表現者との芸術創造：**ホンモノの体験**/オーディエンスの意識改革

【ホワイトハンドコーラスNIPPON主な活動】



2021年8月21日/22日
新国立劇場 新作オペラSuper Angels

作曲：渋谷慶一郎
脚本：島田雅彦
指揮：大野和士
制作：新国立劇場



Photo : Mariko Tagashira

2021年12月21日
東京芸術劇場 第九番交響曲

指揮：鈴木優人/コロネりか
主催：バッハ・コレギウム・ジャパン

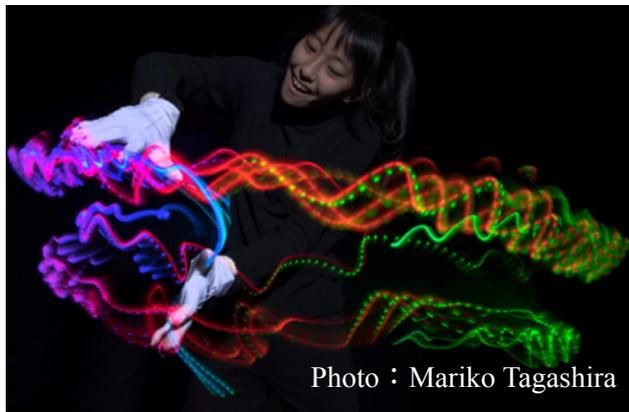


Photo : Mariko Tagashira

※SDGs岩佐賞ジャパンスカラシップ芸術賞受賞

2021年11月18日-/2022年5月

写真展「第九のきせき」

撮影：田頭真理子

共催：(一社)El Sistema Connect

21年/公益財団法人東京都歴史文化財団

22年/ダイアログ・ソサエティジャパン

場所：

21年/東京芸術劇場

22年/ダイアログ・ダイバーシティミュージアム



それが小さな僕の大きな夢

2022年3月30日-9月の月間歌

NHKみんなのうた「ツバメ」

手歌バージョン

制作：NHK

出演：ホワイトハンドコーラスNIPPONと
ミドリーズ

※4/20NHK出版より楽譜出版

【メディア掲載情報】

2022年

- ・教育芸術社『ブーケ』第16号 2022年10月末発行
- ・TV NHK総合「あおきいろ」#8 (2022年3月30日より複数回放送)
- ・TV NHK総合「みんなのうた」ツバメ手歌バージョン (2022年4月3日より複数回放送)
- ・オンライン：FNNプライム「聞こえない子どもたちが「音楽を表現する」“きせき”のホワイトハンドコーラスとは」フジテレビ解説委員 鈴木款 (<https://www.fnn.jp/articles/-/359652>)
- ・新聞：朝日新聞 (2022年10月22日) SDG's 岩佐賞ジャパンスカラシップ 芸術賞受賞
- ・新聞：朝日新聞(2022年9月22日) 「手で奏る歌 広がる」
- ・新聞：京都新聞(2022年9月13日) 「『手歌』と声 ハーモニー」
- ・新聞：沖縄タイムズ(2022年9月3日) 「ベネズエラ発祥合唱団始動 参加募る」
- ・新聞：朝日新聞(2022年5月12日) 「手話で見て聞く『歓喜のうた』」
- ・新聞：読売新聞 (2022年3月13日) 「全盲犬合唱団名誉団員に」※読売オンライントップ掲載
- ・新聞：朝日新聞 (2022年4月4日) 「第九のきせき」体験型写真展開催
- ・新聞：毎日新聞 (2022年4月4日) 「第九のきせき」体験型写真展開催
- ・新聞：京都新聞 (2022年4月4日) 「第九のきせき」体験型写真展開催
- ・全国社会福祉協議会出版部『保育の友』2022年1月~6月号巻頭メッセージ連載

2021年

- ・TV：NHK総合「未来スイッチ」
大使館で見たSDGs▽音楽教育で社会に調和を〜ベネズエラ大使館〜
2021年3月26日以降複数回放映
- ・TV：NHK教育 NHK for School「u&l」きこえないってかわいそう？
※井崎哲也（監修）、水野冬馬（手話通訳・出演）
- ・TV：東京MXテレビ「日曜はカラフル」
2021年4月11日、4月18日
- ・新聞：うたごえ新聞 (2021年2月22日付)
- ・新聞：うたごえ新聞 (2021年2月8日付) コロンえりかインタビュー
- ・新聞：うたごえ新聞(2021年2月15日付) コロンえりかインタビュー

2020年

- ・TV：東京MXテレビ「大使館晩餐会」 (2020年5月11日放送)
- ・新聞：東京新聞「土曜訪問」 (2020年8月8日)
- ・新聞：朝日新聞 (2020年8月24日付)
- ・TV：BS東京「おんがく交差点」(2020年10月10日放送) ※コロンえりか手歌披露
- ・新聞：長崎新聞「時の顔」 (2020年10月6日付)
- ・新聞：毎日小学生新聞 (2020年11月28日付) ※一面掲載
- ・新聞：毎日新聞 (2020年11月26日付)
- ・新聞：北國新聞 (2020年12月13日付)
- ・新聞：北國富山新聞 (2020年12月19日付)
- ・TV：北陸放送 (2020年12月19日放送)

【コンサート出演】

2022年

沖縄ホワイトハンドコーラス発足記念コンサート 沖縄市民会館(12月25日)

※沖縄市「音楽によるまちづくり推進事業」

国民文化祭・障害者交流 沖縄くくる糸満(11月20日)

Dream Landミュージックビデオ配信公開 (11月)

みんなの森 ミュージックビデオ公開 ねんど岡田ひとみ20周年個展表参道ヒルズ (11月)

自主公演(東京・京都合同) 京都コンサートホールアンサンブルホールムラタ(9月23日)

ホワイトハンドコーラスx対話の森ミュージアム コンサート (5月8日)

2021年

Sir. Ken Robinson “Imagine”フェスティバル リモート出演 (3月23日)

ホワイトハンドコーラスx対話の森ミュージアム コンサート (4月1日)

新国立劇場オペラ Super Angels (8月21日,22日 世界初演)

パラリンピック閉会式 (9月8日)

渋谷区主催パラリンピック公式文化プログラム 配信コンサート(9月8日)

バッハ・コレギウム・ジャパン第九コンサート (12月21日)

2020年

都響主催サラダ音楽祭りリモート動画出演(9月)

京都・ふれあいコンサート (11月3日)

東京芸術劇場・京都大徳寺龍光院 配信コンサート (11月29日)

いしかわ・風と緑の楽都音楽祭 (12月18日)

いずみホール・クリスマスパイプオルガンコンサート (12月19日) ※手歌

【講演など】

日本音楽教育学会第53回大会 (2022年11月6日)

公営財団法人AFS日本協会(2022年10月8日)

おきなわ熱中小学校 (2022年3月27日)

日本音楽教育学会関東地区例会 (2022年3月19日)

<小学校>

同志社小学校、全学年有志(2020年6月24日)

港区立筭小学校、1年生・2年生対象 (2020年12月10日)

荒川区立第二峡田小学校 (2021年2月)

八丈島三原小学校、全学年対象 (2021年3月22日)

帝京小学校(2022年3月8日)

<高校>

豊南高等学校 (2021年2月)

<大学>

神田外語大学 (2020年6月25日)

聖心女子大学(2020年6月12日)
東京芸術大学 (2021年10月13日)
＜その他講演＞
私立ザベリオ学園中学講演会(2022年11月24日)
国際ソロプチミスト豊橋30周年記念講演 (2022年11月23日)
IEO国際文化交流団体 (2022年2月27日)
東京銀座ロータリークラブ卓話 (2021年3月31日)
ACT4メンバー向け対談 (2020年11月21日)
鴻巣コミュニティ大学 (2020年10月24日)
三越トラベル (2020年8月20日)
ジャポニズム振興会 (2020年1月11日)
豊橋国際交流協会 (2020年8月20日)
中央区女性ネットワーク (2019年7月6日)

＜問い合わせ先＞

東京都中央区日本橋2-2-3 RISHEビルUCF4階
info@elsistemaconnect.or.jp

ホワイトハンドコーラスNIPPON 活動報告

2021年10月ー2022年9月

ワークショップ

○東京におけるワークショップ：48回開催

各回平均参加者数：38人x48回

参加者属性：視覚障害5人、聴覚障害12人、自閉症含む発達障害6人、その他身体障害1人、健常24人

外部見学者数：125人

指導スタッフ：10人

助演スタッフ：6人（ろう者俳優など、ロールモデルとなる大人の参加）

○京都におけるワークショップ 40回開催(開催できない時は東京のワークショップにZOOM参加)

各回平均参加者数：5人x40回

参加者属性：聴覚障害3人、発達障害2人、その他身体障害1人、健常2人

指導/助演スタッフ：2人/4人

○沖縄におけるワークショップ 10回開催（8月27日より開始）

各回平均参加者数：15人x10回

参加者属性：聴覚障害3人、発達障害9人、その他身体障害1人、健常5人

指導スタッフ：5人

成果発表（次項より、依頼公演、自主公演を含む成果発表の場を参照）

観客総数：3250人（Youtube配信などを除く実際のコンサート、発表来場者数）

スタッフ育成

ワークショップ終了後に毎回フィードバック。月に一度の指導者ミーティングを目指したが、現場でのやりとりで終わり全員集合のミーティングができない月もあった。新しいスタッフも増えたため次年度は定期的なオンラインスタッフ養成講座を計画している。

広報活動

○インクルーシブ読み聞かせ絵本ムービー制作

株式会社電通に所属する作家と共同で、ホワイトハンドコーラスの活動をテーマにした絵本ムービー制作「ミルとキクとポッシボ」（第一話公開中）<http://mirukikupossible.jp>

○アンケート実施（合計3回）

ワークショップに関して、参加者、保護者、スタッフアンケートを年に2回実施。成果発表の後も実施。家庭での子どもとの向き合い方の変化、子どもの自立への効果などがみれた。また成果発表の際に来場者へのアンケート調査も行い、意義や課題を確認できた。

○ドキュメンタリー制作

さわかみオペラ振興財団の協力のもと、一から第九に取り組んだメンバーのワークショップを3ヶ月に渡って記録。2023年1月完成予定。来年の上映会についてもすでに5か所で内諾を得ている。

コミュニティ形成

○LINE WORKSの活用 作業チームごとにグループを作り地域横断的にコミュニケーションツールとしての運用を開始。

○「子どもも大人もポッシボ会議」8月より月に1回満月の夜にオンライン開催（自由参加）

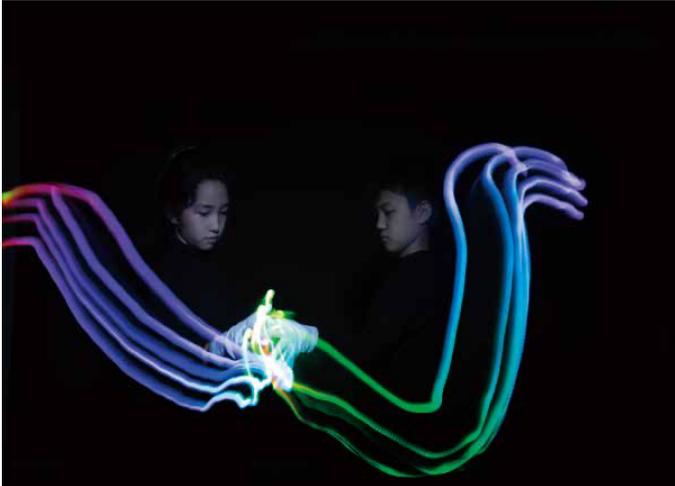
参加者数平均33名 子どもから出たアイデアをもとに成果発表会向けにギャラリーなどを作った。

成果発表について

①「第九のきせき」写真展開催

2021年11月18日～21日、東京芸術劇場との共催により同劇場ギャラリースペースにて、田頭真理子氏による写真展「第九のきせき」を開催。ホワイトハンドコーラスNIPPONが表現するベートーヴェンの「第九」を『可視化』した革新的な試みでした。写真家による光る手袋のアイデアから生まれた手歌の軌跡は、大きな反響を呼びました。

※2022年10月 SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞 芸術賞受賞 田頭真理子さん（朝日新聞）



第九のきせき

2021.11.18 — 21
10:00 — 19:00

ホワイトハンドコーラス
NIPPON

東京芸術劇場

撮影 田頭真理子

2021年11月18日(土)より2021年11月21日(火) 公開時間 10:00—19:00 (18日に限り13時から/21日に限り17時まで)
東京芸術劇場ギャラリー2 (6階) 入場無料

主催：一般社団法人 El Sistema Connect
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
協賛：日光ケミカals株式会社, 日本ターファクト工業株式会社, 株式会社コスモステクニカルセンター
協力：合同会社 MUSIC DESIGN, 株式会社京鐘, 社会福祉法人トット基金
後援：駐日ベネズエラ大使館
コミュニケーションデザイン：内藤久幹 / グラフィックデザイン：田中良治



▲第九より「喜び」



▲第九より「つばさ」



▲第九より「世界中に」

②Bach Collegium Japan クリスマス・スペシャル・コンサート

2021年12月21日、東京芸術劇場で開催されたBach Collegium Japan（以下BCJ）クリスマス・スペシャル・コンサートに、ホワイトハンドコーラスNIPPONが特別出演。鈴木優人マエストロ率いるBCJの皆さまと、クリスマス・キャロルやベートーヴェンの交響曲 第九番（通称 第九）の第四楽章を、声隊・サイン隊共に演奏いたしました。SNSでも「ホワイトハンドコーラスNIPPON」が話題となりました。音楽評論家によっても手歌による子どもたちの熱演は「異次元の第九」「今までで最高の第九」など高い評価を得ました。

BACH COLLEGIUM JAPAN バッハ・コレギウム・ジャパン
クリスマス・スペシャル・コンサート
Christmas
 SPECIAL GIGABERT

● 曲目
 J.S.バッハ:ハストラーレ
 ヘ長調 BWV 590 (オルガン独奏)
 まきびとひつじを
 きよしこの夜
 キャロルメドレー
 タカン:ノエルXII番 (オルガン独奏)
 ベートーヴェン:
 交響曲第九番 二短調
 作品125 (全曲)

指揮・オルガン独奏:鈴木 優人
 ソプラノ:中江 早希
 アルト(メゾ・ソプラノ):湯川 亜也子
 テノール:西村 悟
 バス:大西 守宙
 合唱と管弦楽:バッハ・コレギウム・ジャパン
 特別出演:ホワイトハンドコーラスNIPPON

鈴木 優人
 指揮者

中江早希 湯川亜也子 西村悟 大西守宙
 バッハ・コレギウム・ジャパン

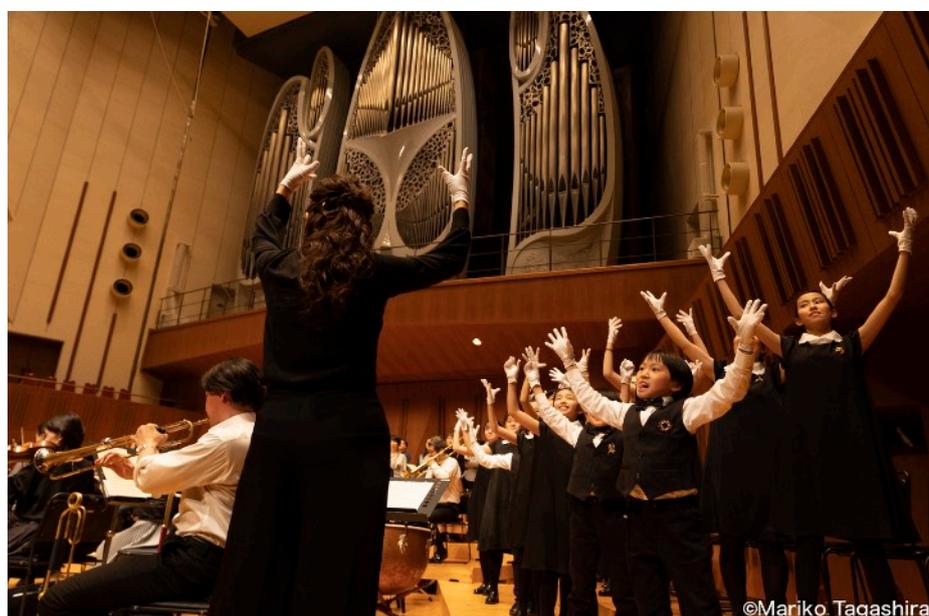
2021 12 21 19時開演 (土) (18時開場)
東京芸術劇場
コンサートホール

●チケット(税込)
 S:12,000円(Sペア 23,000円) / A:9,800円 / B:7,600円
 C:5,400円 / J:3,500円 / U25:3,500円

●チケット取扱い
 ●バッハ・コレギウム・ジャパンチケットセンター 03-5301-0950
 ●東京芸術劇場ボックスオフィス 0370-010-296 (休館日を除く10:00-19:00)
<https://www.geigeki.jp/>
 ●チケットぴあ 1.pia.jp (Fコード:206-120)
 ●イーブラス eplus.jp ●ローソンチケット l-tike.com (Lコード:33496)

※本公演の収入の一部は、子どもたちの福祉活動に活用させていただきます。

主催:公益財団法人東京芸術文化財団 東京芸術劇場
<http://bachcollegiumjapan.org/>



③ 『ツバメ～手歌バージョン』 NHK 「みんなのうた」 に出演

2022年2月27日、NHKのスタジオで声隊のレコーディング、また「ミドリーズ」と共にサイン隊・声隊もMV撮影に臨みました。「7月・9月のうた」として毎週2回放送、また「いろとりどりさん～じゅん～」も注目を集めました。「じゅん」は、ホワイトハンドコーラスNIPPONサイン隊のメンバーです。難聴の子供の目線から見た世界について、アニメーションにして頂きました。こちらも7月中4回放送されました。手歌バージョン及び手歌解説バージョンは、NHKの公式Youtubeから公開されています。



④ 『ツバメ』 手歌掲載の楽譜出版

NHK出版より、「手歌版」の写真図解付きの楽譜が出版されました。NHK出版の楽譜に手話の解説が載ったのは初めてです。（Ayase『NHK「ひろがれ！いろとりどり」テーマソングツバメ』、2022年4月20日、NHK出版。

NHK出版
オリジナル楽譜シリーズ

Vocal & Piano
ボーカル&ピアノ

Piano Solo
ピアノ・ソロ

Chorus
in Two Parts
同声二部合唱

NHK ひろがれ!いろとりどり テーマソング

ツバメ

子ツバメダンスの振付図解と
手歌バージョンの写真図解も掲載

作詞・作曲・編曲 **Ayase**
振付 MIKIKO
うた YOASOBI with ミドリーズ

ピアノ編曲 谷口尚久
合唱編曲 加藤昌則

手歌翻訳 **ホワイトハンドコーラスNIPPON**

NHK出版

⑤体験型写真展「第九のきせき」開催

2022年10月 田頭真理子 SDGs岩佐賞ジャパンスカラシップ芸術賞受賞

2022年4月29日～5月29日、ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」にて二度目の「第九のきせき」写真展を開催。共催は一般社団法人ダイアログ・ソサエティ・ジャパン。「体験型写真展」と題し、一度目とは展示方法も大幅に変更した「見て触れる」写真展を目指し、手歌の軌跡を立体的な特殊印刷（協力：株式会社アマナ）で表現するなど、視覚障害を持った方々にも、より積極的に新しいアプローチを試みました。また、BCJとのライブ録音を使って写真に合わせた音響効果にも挑戦しました。期間中、手歌ワークショップやミニコンサートを実施するなど子どもも観衆も巻き込んだイベントを複数回開催しました。



第九のきせき

ホワイトハンドコーラスNIPPON

×

田頭真理子

2022 4/29 (金) - 5/29 (日)

体験型写真展

ダイアログ・ダイバーシティミュージアム

11:00-18:00 ※5/2を除き月曜休館 入場料:1000円(当日窓口販売)
東京都港区海岸一丁目10-45アトレ竹芝シアター棟1階「対話の森」
最寄駅:浜松町(JR・モノレール)、大門駅(大江戸線・有楽町線)、竹芝駅(ゆりかもめ)
*ミニコンサート、ワークショップ、フォトセッションなどイベントあり。
詳しくは <http://daikunokiseki.dialogue.or.jp>



主催:一般社団法人ダイアログ・ダイバーシティミュージアム/一般社団法人EJ Systems Connect 後援:駐日ベネズエラ大使館
特別制作協力:株式会社アマナ 協力:キヤノンマーケティングジャパン 株式会社
英後:卒業協力:ベッパ・コレクション・ジャパン 音響制作:株式会社アリス 英後出演:モッキー・高野 音響制作:コロムビア
企画製作:北村孝博 デザイン:株式会社pageback, Inc. ホワイトハンドコーラスNIPPON活動協賛:NIKKOL GROUP



▲ミュージアム・コンサートの様子



▲高円宮久子妃殿下2度目のご来場
(写真掲載許可済み)

鈴木款による解説記事 (FNNプライムオンライン)

聞こえない子どもたちが「音楽を表現する」“きせき”のホワイトハンドコーラスとは

<https://www.fnn.jp/articles/-/359652>

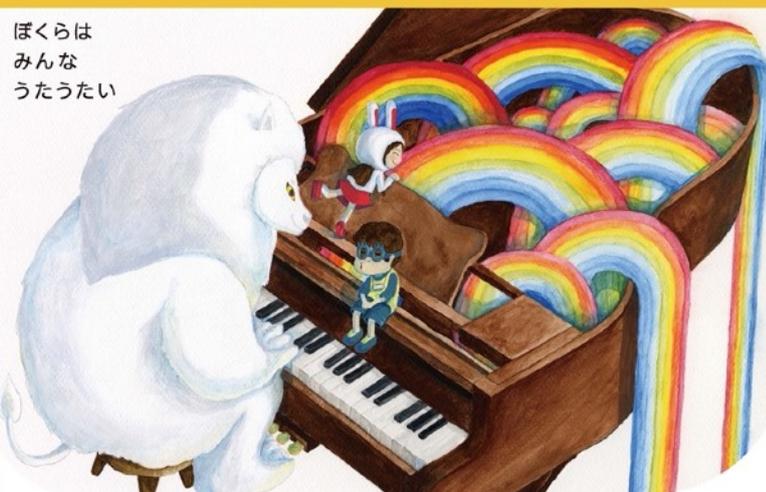
⑥ 「おかあさんといっしょ」夏の特番 手話で歌おうきんらきらぼん 8月1日～6日放映

NHKの長寿番組「おかあさんといっしょ」で初めて、コミュニケーション言語としての「手話」を紹介。斎藤陽道作詞の「きんらきらぼん」を手話で歌い、解説するコーナーにおいて、コロネりか・井崎哲也をはじめホワイトハンドコーラスの指導陣が監修・制作・指導を行い、子育て世代に大きな反響を呼びました。冬にも再度手話で歌うコーナーを制作予定です。

※ポニーキャニオンより手話解説ページ公開中 <https://mama.ponycanyon.co.jp/kinrakira-pon/>

⑦ 京都コンサートホールでの第一回自主公演開催

2022年9月23日（金・祝）、京都コンサートホール（小ホール・アンサンブルホールムラタ）にて、『ぼくらはみんなうたうたい～ホワイトハンドコーラスNIPPON×近江シンフォニエッタ』と題し自主公演を行った。合唱指揮には新進気鋭の辻博之氏を迎え、近江シンフォニエッタのメンバーによる室内楽もお楽しみ頂きました。普段ピアノ伴奏で練習に励む子供達にとって、美しい弦楽器アンサンブルとの共演は大変貴重なものでした。満員のお客様のあたたかい拍手に包まれて、大盛況となりました。



ぼくらは
みんな
うたうたい

ホワイトハンドコーラスNIPPON × 近江シンフォニエッタ

指揮：辻博之・コロネりか ピアノ：千葉直美
室内楽：近江シンフォニエッタ 合唱：ホワイトハンドコーラスNIPPON（東京・京都メンバー）
手話監修：井崎哲也・コロネりか リモート出演：Lara Somos

アイネ・クライネ・ナハトムジーク / モーツァルト 作曲
「にじふらい」～ミルとキクとボッシボより ※辻博之編
リメンバー～ミー ※Lara Somos リモート出演
合唱組曲「あめつちのうた」 上田真樹 作曲
ツバメ / YOASOBI Ayase 作曲
他

※手話通訳・字幕・点字プログラムあり。※ヒアリングループあり。ご希望の方は必ず事前にお申し込みください。（お問い合わせ先：info@elsistemaconnect.or.jp）

日時：2022年9月23日（金・祝） 17:00開場 17:30開演
場所：京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ
〒606-0823京都市左京区下鴨本町1番地の26（京都市営地下鉄烏丸線 北山駅より南へ徒歩5分）

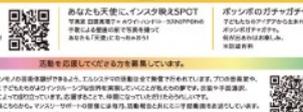
チケット：3,000円（自由席） / 10,000円（応援グッズ付きプレミアムシート）
※プレミアムシートは4～6列中央席でご利用。オリジナルTシャツ（サイズ選択可）とお楽しみグッズを差し上げます。

●オンラインチケット24時間購入可 ※要事前登録（無料） <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>
●京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231 窓口・電話とも10:00～17:00 / 第1-3月曜日 休日の場合は翌平日、年末年始休業
●ロムシアター京都 チケットカウンター TEL.075-746-3201 窓口・電話とも10:00～19:00 / 年中休務 ※臨時休館日等々あり
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため観客数制限する場合があります

主催：一般社団法人 El Sistema Connect 後援：駐日メキシコ大使館、ボリバル共和国大使館、京都府教育委員会、京都市教育委員会
助成：東京倶楽部 公益財団法人さわかみオペラ芸術振興財団「みんなの寄付」 協賛：NIKKOL GROUP ALES Global 合同会社
協力：Figaro Hall 合同会社 Music Design 社会福祉法人レッド基金




ホワイトハンドコーラスとは
ホワイトハンドコーラスNIPPONとは
近江シンフォニエッタ
「にじふらい」世界初演！
コンサートメンバーの発表
手話を一緒に歌おう！
あなたも天使に、インスタ映えSPOT
グッズのガチャガチャ


☆来場者アンケートより☆

○今後の活動に期待すること

- ・認知度向上による活動の継続性
- ・このまま、それぞれの個性が発揮できる活動を続けてください。
- ・子どもたちがチャレンジ出来る団体でありますように

○印象に残った点

- ・舞台を楽しんでいる出演者の表情
- ・メンバーの結束力の高さ、笑顔、パフォーマンスのレベルの高さ。
- ・子供たちの表現力には感動しました！
- ・これまでにこんなに温かい気持ちになったコンサートはなかった。
- ・すべての人が楽しめるように工夫されているところです。
- ・声隊、サイン隊、そして映像のバランスがよかったと思いました。

⑧「育音SongS」によるオリジナル楽曲制作プロジェクト

2022年夏、Good Morning（CAMPFIREグループ）を通してクラウドファンディングが実施されました。J-POPのヒットメーカー、Shusui氏と曾根由紀江氏により、ホワイトハンドコーラスNIPPONのためにオリジナル楽曲をご提供いただきました。普段のレッスンではなかなか触れる機会のないJ-POPに子供達は大喜びで、声隊はすぐに歌を暗譜し、サイン隊も大いに想像を膨らませながら手歌作りに取り組みました。こちらは10月23日（日）に東京芸術劇場シンフォニースペースにて、ミュージックビデオの撮影や成果発表会を開催しました。完成した作品は、ネットでの有料配信が予定されています。

⑨その他

【講演や出張授業など】

京都女子大学教員研修 講演(2022年1月25日)

私立ザベリオ学園中学講演会(2022年11月24日)

国際ソロプチミスト豊橋30周年記念講演（2022年11月23日）

公営財団法人AFS日本協会(2022年10月8日)

おきなわ熱中小学校（2022年3月27日）

日本音楽教育学会関東地区例会（2022年3月19日）

<小学校>

帝京小学校(2022年3月8日)

<大学>

東京芸術大学（2021年10月13日）

<その他講演>

IEO国際文化交流団体（2022年2月27日）

研究発表

日本音楽教育学会 第53回大会「対話する音楽教育」

嶋田由美（学習院大学）、中嶋俊夫（横浜国立大学）と共同発表(2022年11月6日)

Asiatic Society Japan 高円宮久子妃殿下の推薦の元基調講演（2023年1月30日）

手で奏でる歌 広がる

南米で考案 あす京都で関西初公演

耳の聞こえない子どもたちがオーケストラやコーラスに合わせて、手で音楽を視覚的に表現する「ホワイトハンドコーラス」の活動が全国に広がっている。東京、京都のほか、今年から沖縄も活動に加わった。23日には関西で初めての公演が京都市内で開かれる。

ホワイトハンドコーラスは、指揮者を介して耳の聞こえない子どもたちに音楽を視覚的に伝え、白い手袋をはめた子どもたちが、音楽を身ぶり手ぶり、顔の表情で表現する。手歌とも呼ばれる。南米ベネズエラで考案された。日本では2017年に同国出身の歌手コロネりかさんらが東京で始めた。現在は「ホワイトハンドコーラスNIPPON」として京都、沖縄でも活動している。

活動拠点となっている東京芸術

劇場でのリハーサルでは、合唱団と、手で音楽を表現するサイン隊が向き合って練習していた。指揮者を務めるコロネさんの手ぶりに合わせ、サイン隊の子どもたちが表現に感情を込めていく。

「子どもたちが、完璧にリズムを合わせてくる。足から伝わるリズムで『全部わかるよ』と。音楽は耳だけで聞いているわけではないのです」とコロネさん。約40人のメンバーにはろう者のきょうだいや手話を学ぶ学生、自閉症の子どもらも加わる。だれも排除しない活動を目指す。活動を通じて、耳が聞こえない子どもたちも音楽が大好きになったという。昨年12月には、パッハ・コレギウム・ジャパンの演奏会に特別出演し、ベートーベンの「第九」などを表現した。



京都公演を前にリハーサルをする「ホワイトハンドコーラスNIPPON」の子どもたち＝東京・池袋の東京芸術劇場

日本の団体としては関西初となる23日の京都公演では、近江シンフォニエッタの演奏で、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、上田真樹さん作曲の合唱組曲「あめつちのうた」などを表現する。問い合わせは京都コンサートホール（075・711・3231）。

（編集委員・石合力）

沖縄タイムス 2022年9月3日掲載

ホワイトハンドコーラス 12月沖縄市公演



【沖縄】障がいがある子どもも一緒に「歌おう」。一般社団法人エルシステムコネクト（東京、コロネりか代表理事）は19日、沖縄市民会館で「ホワイトハンドコーラスNIPPON in OKINAWA」コンサートを開く。西で歌う「声隊」と、手の表現で歌う「サイン隊」で合唱団をつくり、プロの音楽家と共演する。本番に向け、障がいの有無にかかわらず参加したい県内の子どもを募っている。（文芸部・又吉嘉例）

声と手を使って歌おう

沖縄市が「音楽によるまちづくり推進事業」で協力する。ホワイトハンドコーラスは1995年、南米ベネズエラで、無償の音楽教育政策「エルシステム」の特別支援プログラムとして生まれた。視覚や聴覚に障がいがある子や、そのきょうだいや友人ら多様な子どもたちが協力して合唱する。白い手袋を着けることで、手が演奏の「声」や「楽器」であることを表している。

8月25日、同市松本のNPO法人パリアフリーネットワーク会議でレッスンをあった。県内の小学3年から高校3年まで、障がいがあらずら6人が発声や手話を学び、本番で歌う曲「にじみらい」の歌や手の動きを練習した。振り付けを覚えようと懸命に、それをも楽しんで体を動かした。

コロネりかさん（左奥）の指導の下、白い手袋を着て、手で音楽を表現する子どもたち。8月25日、沖縄市・NPO法人パリアフリーネットワーク会議。

ベネズエラ発祥 合唱団始動 参加募る



申し込みや問い合わせのメールはokinawagistsystem.com oct.or.jp

okinawagistsystem.com oct.or.jp

参加費は無料で、対象は県内の小学1年生～高校3年生。視覚や聴覚、身体や知的の各障がいがある子どもや、障がい児と関わることで成長したい子を募っている。週一回、オンラインを含めた練習がある。

申し込みや問い合わせは「コディネーターの奥徳実さん。メールアドレスはokinawagistsystem.com oct.or.jp」

参加した美術特別支援学校高等部2年の山城優希さん(16)は「手話をしながら踊るのが楽しかった。本番まで頑張ってできた」と意欲的だった。

ソフランド歌手で、コーラスの芸術監督を務めるコロネさんは「舞台上で自分の表現を多くの人に伝えることで、子どもは社会と向き合っていくことができ、大きな成長になる。エルシステムを通して世界の人とつながり、新しい世界を覚えてくれる友達と出会ってほしい」と呼びかけた。

本番は12月25日、コロネさんに加え、ろう者劇団の顧問の井崎哲也さんと県在住のバロックの大橋拓哉さん、同じく声楽家の知念利津子さんが指揮し、共にステージをこなす。

※広島版紙面に掲載後、全国版読売オンラインでトップニュースとして紹介された

県版王



全国の「県版」(地域版)から、えりすぐりの記事を集めた夕刊企画「県版王」に、載せきれなかった西日本のニュースを「県版王+ (プラス)」としてお届けします(記事の情報は原則として各地域版に掲載時のものです)。
*「地域×きょういく」「地域×ライフ」に代わり、第1・4木曜日に掲載します



こちらから地域版紙面(7日分)をご覧ください

全盲犬 合唱団名誉団員に



視覚や聴覚に障害のある子供らでつくる東京の合唱団

に、神石高原町の動物保護団体に引き取られていた全盲の犬が「名誉メンバー」として加わった。合唱団の芸術監督を務める女性は「活動の様子を知ってもらい、豊かな個性に目を向けてほしい」と話す。



譲渡先見つからず

犬は雄の雑種「ウヴェ」(推定5歳)。2016年に、県動物愛護センターが保護した。治る見込みがない病気があると殺処分対象となるため、犬の譲渡先を探す保護事業などに取り組むNPO法人「ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)」に引き取ってもらった。

ウヴェは網膜などが正常に発達しない「網膜異形成」という病気と診断され、手術で両目を摘出して義眼になった。スタッフらの献身的な看病で警戒心も薄れ、慣れた場所ではぶつからずに歩けるようになった。

しかし、障害のために、なかなか引き取り手が見つ

からなかった。

子供たち歓迎

昨年2月、東京からPWJの活動を見学に訪れた合唱団「ホワイトハンドコーラスNIPPON」の芸術監督、コロンえりかさん(42)は、ケージに掛けられた紹介カードを目にして足を止めた。

「両目義眼ですが 散歩が大好き」

「ウヴェ」と名前を呼ぶと元気にケージから出て駆け寄ってきた様子に、すぐ引き取ることを決めた。同時に、合唱団の子供たちの顔が浮かんだ。



合唱団は、障害のある子と健常の子が声と手話で一緒に表現する。東京に戻り、子供たち約30人にウヴェのことを話すと、「名誉メンバーとして迎え入れよう」と歓迎してくれた。

昨年12月、ウヴェは合唱団の公式ツイッターのアイコンに登場。コロンさんは「ウヴェと子供たちの交流の様子などを発信し、自分と違うことを認め合う大切さを伝えたい」と語る。

①ウヴェはぶつからないよう注意が必要だが、広い場所では自由だ。コロンさんが持つリードを頼りに全力疾走する(東京都大田区で) ②提携する東京芸術劇場で公演するホワイトハンドコーラス(昨年12月21日)

手話で見て聞く「歓喜の歌」

写真展「第九のきせき」 港区で29日まで

ベートーベンの交響曲第九番「歓喜の歌」の歌詞を、聴覚に障害のある人たちが手話を使って表現した写真展「第九のきせき」が、港区のダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」で開かれている。29日まで(月曜日休館)。入館料1千円。小学生以下無料(保護者の同伴が必要)。

写真家の田頭真理子さんの「歌」の中に出てくる歌詞「たちが光る手袋を着け、(都内在住)が撮影した。を音楽的にアレンジした手「手歌」によって表現した「歓喜」「やわらかい翼」話「手歌」によって可視化 歌詞を1〜4秒の露光をかけて「神々の火花」など「歓喜」した。聴覚に障害のある人 けて撮影した。



「やわらかい翼」いずれも田頭真理子さん提供

ホワイトハンドコーラスNIPPON

光る手袋つけ表現 撮影会や体験も

モデルとして撮影に参加したのは主に合唱団「ホワイトハンドコーラスNIPPON」の子供たち。白い手袋を着け、手話を使って歌詞を表現する「サイン隊」と合唱する「コーラス隊」で構成されている。田頭さんは2017年の活動開始当初から撮影を続けている。

会場では来場者もモデルとして参加できるフォトセッションも予定されている(有料2千円)。撮影した写真は会期中、会場に展示される。また、手話体験のワークショップ(1千円)も予定されている。問い合わせはダイアログ・ジャパン・ソサエティ(<https://djs.dialogue.or.jp/>)。

写真撮影では、聴覚に障害のある子供が写真を見て、「音楽が聞こえてきた」と喜んだという。田頭さんは「子供たちの豊かな表現、第九という音楽の素晴らしさをいろいろ感じ方で楽しんで欲しい」と話している。(葛谷晋吾)

2023年 令和5年
1月22日 日曜日
 発行：沖縄タイムス社
 住所：〒900-8678 那覇市久茂地2-2-2
 電話：(098)860-3000

vol.1268
 子ども大人も めくるワクワク

創刊25年
 タイムス
 ワラビ

2 ゲッチョ・エイトマン
 4,5 ヨムナワ 筆者紹介
 6 アサリの殻なぜ開く?
 7 歴男塾・沖縄ニュース

8 海底に眠る米軍艦



声と手豊かに歌う

ホワイトハンドコーラス

表情や体使って6曲披露

耳が聞こえない子ども、声を出しにくい子ども、全員が「うたいたい」。県内の5歳から18歳までの子ども約40人が、声で歌う「声隊」と、身ぶり手ぶりで歌う「サイン隊」に分かれて合唱するコンサート「ホワイトハンドコーラスin OKINAWA」が昨年12月25日、沖縄市民会館でありました。障がいのある子ども、ない子ども、声や顔の表情、体全体を使って6曲を披露し、それぞれ自分のできることや、やれることの広がりを見せました。

沖縄市が協力しました。白い手袋を着けることは、手がその人の「声」であり、「楽器」であることを表しています。

「職人が一つ一つ作った手袋。使ってもらえることは誇りです。」コンサート4日前の昨年12月21日、沖縄市内のリハビリ会館。コロンさんがサイン隊の一人、一人に白い手袋を手渡しました。手にはめたメンバーからは笑みがこぼれます。耳に障がいがある沖縄県、中2年の垣花蓮さん。リハビリでは指揮者の動きを真似に見つけていました。練習に初参加した10月は「恥ずかしくて自信がなかった。家でも練習を重ね、上達するにつれ、楽しくなってきたそうです。サイン隊の手の動きは手話とは違う手話。「集中して大きな動きで合わせる」と意気込みました。

「さまざまなメンバーが協力し、心を合わせて歌います。25日、本番のステージはそんな垣花さんの手話で幕開けしました。『ごいんざぬ花』で始まり、ツバメ『浜辺の歌』と続きました。声隊の歌で、サイン隊の手話で、全員が生き生きとした表情で、観客を引き付けます。

県内で活動するシアターの「大蔵祐歌さんや声楽家の知念利津子さんらプロのアーティストも共演し、このコーラスの活動から生まれた曲「じぶんらい」で盛り上がりは最高潮に達します。手話で「涙を流し」「突



手話で楽曲について解説する垣花蓮さん



ワラビ

みんなも両手を顔の横に上げ、手首を回してひらひらと振ってみよう。これが手話で拍手を表すサインだよ。ホワイトハンドコーラスの会場ではステージ上の出演者に、手を打ち鳴らす拍手と静かな手話の拍手、両方が送られていたよ。